

<b>教育事業名</b>	<b>平成 29 年度 国立室戸青少年自然の家教育事業</b>  <b>日本列島ともだちの輪 夏編</b>			
<b>事業の趣旨</b>	お互いに異なる地域の子供たちが交流し、自然環境の違いを体験することで、ともだちの輪を広げ、郷土の良さを再認識するとともに、他者を尊重する気持ちを育むことをねらいとする。			
<b>対象者</b>	小学生（5・6年）・中学生（1・2年）			
<b>実施期間</b>	平成 29 年 8 月 17 日（木）～平成 29 年 8 月 20 日（日）3 泊 4 日			
<b>参加者（人数/定員）</b>	30 名/30 名			
<b>活動プログラム</b>	<b>8 月 17 日（木）</b> 15：00 受付 レクリエーション 16：15 開講式 オリエンテーション 16：45 入室 ベッドメイキング 17：30 タベのつどい 夕食 19：00 仲間づくり 20：30 入浴 21：10 班会 21：40 就寝準備 22：00 就寝	<b>8 月 18 日（金）</b> 6：00 起床・洗面 健康観察 7：10 朝食 7：30 自然の家発 9：30 牟岐少年自然の家着 9：45 無人島体験 スノーケリング 11：30 昼食 スノーケリング 13：15 無人島発 着替え等 14：50 牟岐少年自然の家発 17：30 タベのつどい 夕食 18：30 班別活動 20：30 入浴 21：10 班会 21：40 就寝準備 22：00 就寝	<b>8 月 19 日（土）</b> 6：00 起床・洗面 健康観察 7：15 朝のつどい 朝食 9：00 自然の家発 9：30 ミニクルージング ハロールドルフィン 12：00 自然の家着 昼食 13：30 パウムケーハンづくり 流木クラフトづくり 17：30 タベのつどい 夕食 18：30 キャンプファイア 20：30 入浴 21：10 班会 21：40 就寝準備 22：00 就寝	<b>8 月 20 日（日）</b> 6：00 起床・洗面 健康観察 清掃・荷物整理 シーツ返却 7：15 朝のつどい 朝食 8：10 退所準備 退所点検 8：45 感想アンケート記入 閉講式 10：00 退所  <b>【室戸】</b> 12：45 はりまや橋観光B着 <b>【丹波】</b> 17：30JR 新三田駅着
<b>活動の様子</b>	<p>8 月 17 日木曜日（1 日目）</p>  <p>高知県の参加者 30 名は自然の家に到着後、丹波からの参加者を迎えるためにすぐに環境整備に入った。作業をする中で、高知県の子供たちの緊張感がずいぶん和らいだように感じた。丹波のバス到着を高知の子供が笑顔で迎えた。夕食後の仲間づくりでは、ボランティアリーダーが今回</p>  <p>のキャンプの概要をミッション仕立てにして掴ませながら、徐々にともだちの輪が広がっていくようプログラムの組み立てを工夫して行い、参加者も緊張することなく交流を楽しんだ。夜は翌日のスノーケリングに備えて準備を行い、軽めの活動とし、全員落ち着いて就寝した。</p> <p>8 月 18 日金曜日（2 日目）</p>  <p>早朝、2 台のバスに分乗して室戸青少年自然の家を出発し、徳島県立牟岐少年自然の家に向かった。牟岐少年自然の家では、プールを使ってスノーケリングの練習を行った。マスクの装着の仕方から始まり、マスククリア、スノーケルクリア等をバディで確認し、海への期待感を高めつつバディとの信頼関係も築いていた。予定していた無人島</p>			

への渡航は未明の激しい雷のため渡船を出すことができず断念することとなった。かわりに、牟岐少年自然の家の浜から海の中を歩いて松ヶ磯に渡り、磯だまりの中や周辺でスノーケリングを行った。無人島には渡れなかったが、たくさんの魚や磯の生物を見ることができた。見つけた魚を指さしてバディに教えて、感動と興奮を共有する場面が多くみられた。夜は室戸に戻り、班対抗のすごろく大会を行った。体育館いっぱいには作られた巨大すごろくのマスに指示に従い、全身を使ったダイナミックな活動を行いながら班の中の親睦を深めた。



8月19日土曜日（3日目）

2班に分かれ、室戸岬を船上から眺めるミニクルージングとドルフィンセンター内のイルカを間近で見るハロールドルフィンを交代で楽しんだ。班ごとにまとまってドルフィンセンター内を歩き、班の中の親睦が深まっている様子が感じられた。



午後は自然の家に戻り、班で協力して行うバウムクーヘンづくりと個人で取り組む流木クラフトづくりに取り組んだ。時間とともに大きくなるバウムクーヘンに夢中になり、他の班よりも上手につくろうと班の中で声を掛け合いながら夢中で焼いていた。バウムクーヘンを竹から取り外し、断面の年輪を見て「うまくなった」と歓声が上がっていた。

夜は、班ごとに焚火台を囲み、班ごとのミニキャンプファイアを行った。火を見つめながら3日間を振り返り、「初めは緊張したけど、どんどん仲良くなれて嬉しかった」とか「冬編でまた会るのが楽しみ」といった声が聞かれた。思わず涙ぐむ班もあり、濃密な三日間を過ごしたことが感じられた。



8月20日日曜日（4日目）

丹波からの参加者の移動時間を考慮し、最終日は感想やアンケートを記入して10時に退所となった。丹波からの参加者がバスに乗り込むのを花道を作って見送り、参加者もボランティアリーダーも笑顔と涙の入り混じったお別れとなった。冬編での再会を誓い合う姿が印象的だった。

## 事業の成果

- ・スノーケリングを通して、自分の見た感動をバディに伝えあう姿が見られ、自然なコミュニケーションを生み出すきっかけとなった。また、スノーケリングはどの参加者の感想の中にも、楽しかった思い出として記述されていた。
- ・ミニクルージングやハロールドルフィンの際に、班ごとにゆったりと過ごす時間が生まれ、班ごとの思い出作りの時間となり、結果的に班の絆を深める時間となった。
- ・焚火台を囲んでのキャンプファイアは、参加者一人一人が心のうちに思っていることを素直に口に出す雰囲気づくりに大いに役立った。
- ・ボランティアリーダーの企画した仲間づくりは、参加者同士の仲を深めるための段階的な課題を与える工夫もあり、ねらい通りの成果を上げることができた。

<b>事業の課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波少年自然の家から室戸までの道のりが遠いため、到着予定時刻が予測しにくい。今回、予定よりも 1 時間近く早く到着しそうになったため、急きょ丹波の参加者だけ別プログラムとして室戸岬探勝を実施した。丹波からの参加者の到着時刻が前後した場合を想定したプログラム作りをしておく必要がある。</li> <li>・個人作業の流木クラフトづくりと共同作業のバウムクーヘンづくりを同時進行で行ったが、個人作業と共同作業のバランスがうまく行かず、トラブルの元となる班もあり、プログラム精選の必要を感じた。</li> <li>・リピーターの参加者も多く、過年度の活動プログラムを考慮して、活動計画を企画していく必要がある。</li> </ul>
<b>参加者の感想</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全く知らない人と仲良くなれるか心配だったけど、みんなとてもフレンドリーですぐに仲良くなれてうれしかったです。</li> <li>・スノーケリングでは小さな魚が目の前でたくさん見られてとてもかわいかった。エビを捕まえようとしたけど、動きが素早くて捕まえられなかったのが悔しかった。無人島には行けなかったけど、友達やリーダーと楽しめたのでよかった。</li> <li>・テレビでバウムクーヘンを作っているのを見たことはあったけど、自分で作ったのは初めてで「どんなのできるのかな？」と思っていたけど、みんなで協力して上手にできたのでうれしかった。</li> <li>・キャンプファイアでは三日間のことをいろいろ話しているうちに寂しくなっすぎて泣いてしまいました。三泊四日すごく楽しかったので、帰るのは寂しくてまた泣きそうだけど、冬編がとても楽しみです。</li> </ul>